

『堀井龍司憲兵中佐手記』(2017年3月刊行)をめぐって

2017年7月8日 日本タイ学会(於法政大学)村嶋英治報告

I、近代日タイ関係史研究発展のため日本側資料発掘の必要

1, 日本側公文書(明治大正期、昭和期)

自己破壊された多数の軍事・外交史料

アジア歴史資料センターの検索機能の不備、

タイ関係外務省記録、旅券下付表(115リール)「近代タイ関係邦人全覧」

2, 150年に亘る雑誌記事・新聞(各県に数紙存在した多数の地方紙を含め)報道の収集の必要(ウェブ検索では行き着かないもの多し)、「邦語近代タイ関係文献目録」作成の必要

3, 記録フィルム、写真等(例、中村明人中将、小西健雄(たてお)大佐旧蔵写真)

タイ語版『仏の司令官』(村嶋訳)、『写真記録東南アジアービルマ・タイ』(ほるぷ出版, 1997)

4, 個人・民間所蔵の個人文書(在タイ邦人からの書簡、日記、記録、回想録)

釈宗演書簡、岩本千綱文書、柏原文太郎文書、新田義實日記(稲垣満次郎・政尾藤吉は残っておらず。安井テツは非公開)(cf.華僑の僑批収集との比較)

下記堀井龍司憲兵中佐・原寿雄(としお)少佐の回想

5, インタビュー

II、埋もれた資料の一例(バンコク進駐写真)

第15軍下の近衛師団歩兵第五聯隊(宮3804部隊、岩畔豪雄聯隊長)のバンコク進駐の写真

編輯兼発行人宮三八〇四部隊(編輯委員長 内田武夫大尉、撮影者:樋口正夫)『シンガポールを屠る(大東亜戦争出戦記念帖)』(昭和18年3月6日近衛師団司令部許可済、昭和18年5月30日発行)

Ⅲ、堀井手記の価値・見所

村嶋英治編集解説『堀井龍司憲兵中佐手記、タイ国駐屯憲兵隊勤務（1942—45年）の思い出 付録 18 方面軍参謀原寿雄少佐手記』（早稲田大学アジア太平洋研究センター研究資料シリーズ No.7,2017年、187頁）早稲田リポジトリ (<http://hdl.handle.net/2065/00052443>)

タイに相当数の日本軍を駐屯させることは不可能な軍事情勢下で、如何に安定的な親日政権を維持するか、という共通課題

重要人物へのコンタクトパーソン（連絡者）配置 pp.27-29

パホン（江畑朔弥夫人）、プリディ（ラーシー・ラタナチャイ）、クアン（宮川岩二）、陳守明（王鏡秋）

親日派タイ人の存在（ソムアン・サラサス等）「アジア人のアジア」理念への共感

1930年代半ば、守屋精爾武官による、プリディ、ソムアンらフランス語人脈の形成、ソムアンの青年愛国党

円パーツ等価裏付物資を使って親日愛国婦人団体の組織化支援

p.70 「警察大佐P氏夫人（靴下工場を経営している）」は、プラ・ピニット夫人のブンラップ（ม.ร.ว.บุญรับ พิณจวบถลิ่ง 1896-1981, セーニー・プラモートの実姉）であること葬礼記念本より判る。

pp.62-63 サグアン・トゥラーラックのサイゴン経由中国行きは、プラヤー・ソンスラデートと反ピブーンで連繋するためと、ピブーンは誤解（1944年6月1日のソンスラデート急死に関係？ 吉川英男氏インタビュー）

在タイ日本軍から見た自由タイ運動、p.28,p.83 憲兵隊のプリディの尾行と警戒、抗日アダウン警察局長と腹心のジャムラット警察少佐（元日本留学生）

pp.103-108 ,1944年7月政変（ピブーンからクアン首相へ）と日本中央、日本軍・日本大使館、

プリディとソムアン、p.109 ソムアンの訪日

pp.120-121 仏印処理後、自由タイの抗日蜂起計画,これに反対したソムアンをサイゴンに亡命させる